2015 年 11 月 14 日東南アジア学会中部例会
第 250 回記念シンポジウム「中部地方と東南アジア：現在・過去・未来」報告

このたび、東南アジア学会中部例会は、このたび第 250 回を迎えました。それを記念して、愛知大学国際問題研究所共催のもと、中部地方と東南アジアとのかかわりについて過去を振り返り、現在を見つめ、そして未来を考えるシンポジウムを、2015 年 11 月 14 日に開催いたしました。

シンポジウムでは、趣旨説明の後、愛知大学・伊東利勝教授による戦前の中部経済界と東南アジアの関係を松坂屋の伊藤祐民氏の活動を中心に紹介する発表や、愛知大学・加納寛教授による戦前から戦後初期にかけての中部地方と東南アジアの関係を、陶磁器輸出業や日泰寺を中心に紹介する歴史的な発表に続き、佐賀大学・新美達也准教授による現在の中部地方から東南アジアへの企業進出の実態に関する発表や、愛知県立大学・小座野八光准教授によるインドネシアの基幹大学における日本語再教育についての取り組みに関する現在進行中の状況についての発表があり、さらに名古屋大学大学院・黒川祐介氏によるイネ品種育成プロジェクトについての名古屋大学の取組紹介がなされ、未来に向けての中部地方と東南アジアとの関係についての展望が示された。総合討論では、フロアの参加者も含めて、この中部地域から東南アジアを見通す必要性や魅力・課題について活発な討議が展開された。

折からの強雨やパリのテロにもかかわらず、約 50 名の熱心な参加者があり、中部地方における東南アジアへの関心の高さが示された。